

## 第9回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

と き 平成31年2月18日（月）午前10時00分から午前11時30分

ところ 阿波観光ホテル（3階 ロイヤルパレス）

### 1 開会

### 2 徳島市あいさつ

（徳島市企画政策局長）

徳島市企画政策局長の松本でございます。開会にあたりまして一言ごあいさつ申し上げます。

本日はお忙しい中、第9回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会にご出席いただき、厚く御礼申し上げます。また、このたびは、委員の改選時期ということでしたが、快く委員の就任をお引き受けいただき、重ねて御礼申し上げます。

さて、皆様もご承知のとおり、我が国の人口は平成20年をピークに減少傾向が続いております。少子高齢化の進行、また生産年齢人口の減少が続いており、我が国の今後の発展を不安に感じるところでございます。

こうしたことが地方においてはさらに急速に進んでおります。地方自治体の運営に目を向けますと、人口減少が、税収の減少となり、自治体の財政基盤が脆弱な状況となって参ります。この一方で、福祉関係経費は増大しており、インフラ整備といった公共投資への予算配分が難しい状況となっております。

こうした状況を打開するために、地方創生ということで、各地方においては、新たな産業の創出や観光振興、また若者の定住、U I J ターンの促進、といった様々な取組を行っているところでございます。

定住自立圏構想は、地方創生のための基盤となる取組でございまして、大きな役割を果たすと考えております。徳島東部地域定住自立圏構想については、中心市を徳島市として、近隣の11市町村と連携・協力をしながら、生活基盤に関すること等、様々な事業を実施しております。

私どもは、この取組が今後さらに発展していく、また発展させなければならないと考えております。このためにも、本日お集まりいただいた懇談会委員の皆様の様々なご意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、徳島東部地域定住自立圏における第2次共生ビジョンが今後ますます発展、また円滑に推進ができますよう、皆様のご指導ご協力をお願い申し上げまして、簡単ではございますが、開会にあたってのごあいさつといたします。本日はどうぞよろしくお願いたします。

### 3 委員紹介

### 4 会長・副会長選出

設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員の互選により、会長を加渡委員に決定。

設置要綱第5条第4項の規定に基づき、会長の指名により、副会長を板東委員に決定。

(会長)

前期に引き続き会長にご推薦いただき、非常に身の引き締まる思いでございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

先ほど、ごあいさつのなかでもありましたが、現在、地方においては、人口減少に歯止めがかからず、一方で首都圏への一極集中は加速をしている状況でございます。全国の72パーセントの市町村が転出超過に悩まされております。徳島県全体では、平成31年1月1日の人口推計では、74万人を割り込み、735,256名となりました。この人口減少は20年連続して起こっております。

この徳島東部圏域におきましても、前年よりも3,740名の人口が減少しております。この人口減少に対峙するため、定住自立圏構想の基本的な考え方であり「集約とネットワーク化」により、それぞれの市町村が、協調、連携しながら地域経済の活性化に取り組んでいく姿勢が今強く求められているところでございます。世界的な潮流を見ましても、国連サミットで採択された、SDGsの17の目標の達成に向け、それぞれの主体が持続可能なまちづくりに邁進しております。

今日は、私たちの愛する徳島の東部圏域をどのように活性化していくかということに焦点を当てて、第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの現在の取組状況を確認し、委員の皆様からご忌憚のない意見を賜りたいと思っております。どうぞ最後までお付き合いのほどよろしくお願ひいたします。

(副会長)

北島町から参りました板東でございます。

大変僭越ではございますが、引き続きまして、副会長を仰せつかりました。

加渡会長を補佐しながらスムーズな会の運営に努めたいと思っております。どうかよろしくお願ひいたします。

## 5 議事

### 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況及び変更について

(事務局) **資料2** 定住自立圏形成協定に規定する取組(20項目)及び連携市町村一覧

**資料3** 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況(平成30年度)

**資料4-1** 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン(変更案)

**資料4-2** 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン連携事業一覧(変更案)  
に基づき説明。

(会長)

ただ今、事務局から20の事業についての取組状況及び共生ビジョン変更についてご説明をいただきました。20の取組事業のうち50%は、Aという評価が出ていますが、B、Cの進捗評価がついているものもあるようです。また、新しい取組や方向性についてもご説明がありました。

委員の皆様から自由にご意見を頂戴したいと思います。専門の分野からのご意見でも結構ですし、全般的なご意見・ご質問でも結構です。

## (委員)

観光の分野について、専門の分野というわけではないのですが、関心があるということで質問いたします。

今年度より、DMOが動き出したということで、順調に取り組んでいるのだろうと思うのですが、この点がよくわかりません。体制については、「イーストとくしま」という形だと思うのですが、参画者がどのようなネットワークで結びついているのか、また各市町村とどのような関係にあるのか、はっきりとわからないのでご説明いただきたいです。

広域観光案内ステーション（観光案内所）について、そごう（アミコビル）の地階にありますが、徳島駅で観光客が下りた時に、観光案内所が見えない状態です。電話などで問い合わせがあっても、場所の案内をするのが難しい。構想としては、2、3階建てのものを造るという話を聞いているのですが、具体的にどのように進捗しているのでしょうか。汽車とバスの両方のアクセスが考えられるので、駅周辺の誰が見てもわかるような場所で、駅の中が一番わかりやすいと思いますが、観光や宿泊の情報を1ヵ所に集約し、スタッフを配置するというようなことも検討したほうが良いと思います。

また、観光レンタサイクルの貸出を止めるという話を聞きました。観光に来られた方が、ちょっと市内を走るときに、あった方が便利だと思います。予算の関係もあり、自転車の買い替え等メンテナンスが大変なのかもしれませんが、少しの台数でも回転をさせて、全く止めてしまうのではないような方向で、検討をしていただければと思います。

2月13日の徳島新聞の記事で、イーストとくしま観光推進機構が実施したアンケートで、徳島東部地域には、若者向けの観光地が少ないという結果が出ていました。県内でも西の方では、一般社団法人そらの郷が中心になって、活発に取り組んでいるようです。イーストとくしまについては、まだ始動したばかりなので、官が主体にならざるを得ないと思いますが、将来的には民間の力も携え、両方の力でやっていかなければいけないのではないかと思います。

## (担当部会事務局)

DMOについてですが、昨年3月末に一般社団法人イーストとくしま観光推進機構が設立したばかりでして、まだまだ体制がわかりにくいところがございます。ホームページなどで情報発信を行い、さらなる周知を図りたいと考えております。今年度の取組といたしましては、モニターツアーやアンケートを実施しました。また、海外も含めました、観光セールスプロモーションを行いました。間もなく、2年目に入りますが、どなたにとってもわかりやすくなるように、さらなる磨きをかけて参りたいと思います。

広域観光案内ステーションについては、場所がわかりにくいという点が弱点としてございます。あの場所が適当かどうか議論もありますが、平成31年度については、引き続き、現在の場所で行っていきたいと考えております。また、手荷物の一時預かり業務を始めたいと考えておりますので、さらなる情報発信を行い周知を図って参ります。

レンタサイクルについては、予算上の問題により、残念ですが、広域観光案内ステーションでの貸出は今年度で終了いたします。ただ、徳島市が指定管理者制度により管理・運営しております、徳島駅前地下自転車駐車場で20～25台のレンタサイクルを行っている聞いておりますので、こちらの方で若干の代替は可能かと思っております。

若者向けの魅力的な観光地については、DMOの取組として、開拓して参りたいと思います。

(委員)

広域観光案内ステーションについては、以前に確か、現在のものを改修して、徳島駅から見える程度の規模のものにするといったような、計画があったような気がします。予算的な問題で立ち消えになっているのかもしれませんが、来年度の取組としては、間に合わないと思いますが、今後、前向きに検討をお願いしたいと思います。

(委員)

観光についてお聞かせいただきたいと思います。施策の4番目にあります、圏域内の観光資源を生かした観光開発、観光誘致について、「観光資源を生かして」という取組は、おそらく今までも一生懸命考えて取り組んできたとは思いますが、結果としては、なかなか進んでいないという現状があるかと思います。取組内容を読むと、「新たな観光資源」の発掘という点が重視されているように思います。今は観光の目的自体が多様化してきていますので、とんでもないと思えるようなものもSNSなどで発信して、それがヒットして、観光資源となっていくようなことがあります。

施策名のとおり「観光資源を生かした」というと、「既存の観光資源」のみにとらわれてしまい、「新たな観光資源」のアイデアが出てきにくいのではないかと思います。観光に関する施策について、「既存の観光資源」を生かした取組と、「新たな観光資源」を創出・発掘する取組とに整理して考えた方が良くように思います。

進捗評価についても、ほとんどのものがAやBといったように、「それなりの評価」になっていますが、「もっとダメな評価」というのも出てきてもいいのではないかと思います。「それなりの結果」を出さないといけないという事情があるのかもしれませんが、これでは、事業の目的や考え方が委縮してしまっているように感じます。失敗のリスクはあるかもしれないが、もっとチャレンジするような取組を行うと、その中からヒットするようなものが出てくることもあるのではないのでしょうか。こういった取組からイノベーションと呼べるものが生まれると思いますし、その方が、徳島東部圏域にとって良い結果を生むように思います。

(委員)

観光に関して、各市町村でそれぞれ取組を行っていると思いますが、定住自立圏共生ビジョンでは、圏域市町村が連携して取り組むということで集まっていると思います。県内を見渡してみると、三好の大歩危や鳴門の渦潮など、海外からの観光客が来られている場所もたくさんあります。こうした中で、徳島東部圏域へともう一歩足を伸ばしてもらえよう、どのような戦略を圏域として、立てていくか考える必要があると思います。

大阪のUSJなどを目的に来られた観光客をこちらに引っ張ってくるといったような旅行プランを見たことがあります。この圏域の中で、宿泊し、お金を落としていただくような戦略を、連携して立てる必要があると思います。旅行プランとして、こういう風に過ごしてみてもどうか、といったようなプランをいくつか提案するような取組が必要ではないのでしょうか。

また、国内で旅行に来られる方は、自動車で来られる方も多いと思いますが、海外から来られる方にとっては、自動車を運転するということは、結構ハードルの高いことです。海外からの観光客の方たちに楽しんでいただくためには、公共交通のネットワークを構築することが非常に大

事になるかと思えます。鉄道やバスなどを観光客がどのように使うかという視点からの、市町村も巻き込んだ公共交通機関の見直しが必要であると考えます。

#### (会長)

観光に関して、まずは、観光資源について、既存のものを生かすということも大事だけれども、発掘・発見、あるいは「とんでもないもの」を創るということも大事というご意見をいただきました。次に、圏域の市町村で連携した戦略が必要であるし、公共交通機関のネットワーク整備も必要であるとのことをご意見をいただきました。

#### (事務局)

進捗評価に関してお答えします。成果指標の設定に関しては、国からも求められているところであり、PDCAサイクルの運用については、しっかりと評価・検証を行い、次の改善につなげるよう努めております。進捗評価については、自己評価でございますが、より分かりやすくするためにABCという三段階で評価しております。

委員のご意見のとおり、もっと奇抜なようなものも考えていければと思いますが、それぞれの取組内容については、中心市と連携市町村が対面で締結している連携協定に基づいた内容となっておりますので、すぐに変更できる部分とそうではない部分とがございます。工夫をしながら取組を行って参りますが、第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの期間が平成32年度までの5年間となっておりますので、第3次のビジョンを策定するかどうかも未定ではありますが、その段階で見直しを行いたいと考えております。

#### (会長)

ありがとうございました。それでは、ほかにご意見をいただきたいと思いますが、どなたでもどの分野でも結構ですので、いかがでしょうか。

#### (委員)

一点目は、子育て環境の充実についてですが、病児保育事業は、命を守ることにしてとても大事です。そのほかにも、お金のかからない方法で何かできるのではないかと考えておまして、以前にもお話しさせていただきましたが、赤ちゃんの駅の推進について申し上げます。

赤ちゃんの駅では、授乳室やおむつ交換台、お湯のサービスがありまして、赤ちゃんをお連れの方が外出しやすくなるよう、特に0歳児の赤ちゃんがいると家にこもりがちになりますので、こうした方が、社会との接点を持つ機会が増えるようにと取り組まれています。

徳島市は、「子育て支援都市・とくしま」を宣言しており、赤ちゃんの駅に関する取組がなされています。中心商店街にある子育てほっとスペース・すきっぷは、赤ちゃんの駅として登録されており、この目印としてステッカーを貼っております。これが少しもったいないと思う点がありまして、ステッカーが小さくてわかりにくいです。のぼりもあるそうですが、貸出ということで、十分な数がないようです。ステッカーを少し大きくするか、のぼりを作るとか、そんなに多くのお金はいらないと思いますし、また、この徳島東部圏域が全体として、子育てがしやすいというようなことをPRしていけたらと思います。在宅で子育てされている人も、働きながら子育てしている人も、まずは0歳児の子育てが、大事な子育ての一步になりますので、「また赤ちゃんを

産みたい」、「赤ちゃんって可愛い」と思えるような子育て環境の整備に、徳島東部圏域全体として取り組んでいければと思います。

二点目は、図書館の相互利用についてですが、利用者があまり増えていないのは、なぜでしょうか。予算の制約があり事業に十分取り組めていないのか、または、利用のニーズがこれ以上ないということなのか、毎回疑問に思っています。私は徳島市外に居住していますが、徳島市で仕事をしていますので、午後9時まで開いている図書館で借りて、居住地の近くで返却できたりすると便利だと思います。

最後になりますが、2月16日に「木育サミット in 徳島」が開催され、全国から600名を超える方が参加されました。そこで、注目を浴びているのが、平成31年度から始まる森林環境譲与税です。森林地域だけでなく、都市部にも配分されるということで、結構大きなお金が動くと思います。勝浦町では、役場の建物を木質化していたり、子育て支援センターの部屋に全面的に勝浦町の杉を利用するといったような取組を実施していると思うのですが、この徳島東部圏域で、森林環境譲与税を財源とした、木育や森林環境の面での取組について何か考えていることがあればお聞きしたいと思います。打ち上げ花火的なイベントは全面的に賛成ということではないのですが、さらなる木育の推進という観点から、広くPRをするために、徳島東部圏域として、木育フェスタや子育てと木育をつなげた何かイベントのようなことを、森林環境譲与税の使い道として考えていけるといいなと思います。

#### (会長)

ありがとうございました。ご質問には、まとめて後からお答え頂きたいと思います。子育て支援の分野ではかにご意見はございますか。

#### (委員)

図書館の相互利用に関してですが、なぜ現状では、石井町と北島町だけが、連携市町村になっているのかわからないのですが、藍住町の人でも徳島市立図書館を利用できるといいのではないかと思います。

また、教育、子育て環境の充実に関してですが、平成31年10月から、3歳児以降の幼稚園・保育料が無料になります。3歳児は幼稚園教育の中に入りますが、藍住町の町立幼稚園は対象者を4、5歳児だけにしているのので、都会から転入してこられた方からの、どうして幼稚園に入れないのかというお声を聞きます。保育所には働いていないと入れませんし、3歳児の発達には集団を通して身につく教育部分があるので、幼稚園に行かせたい人は入れるようになれば良いなと思います。小学校に関しては、教育委員会の広域化を行っているところもあるようですが、幼稚園でも広域化ができるといいなと思います。

#### (会長)

それでは、事務局からお答えお願いいたします。

まずは図書館の相互利用についてどうなっているのかという点と森林環境譲与税の使い方についてです。

#### (担当部会事務局)

図書館の相互利用についてお答えいたします。この相互利用事業については、事業立ち上げの際に、徳島市から各市町村にお声掛けをして、石井町と北島町に参加をいただき、現在の形となっております。各図書館の貸出に関するルールについては、様々あると思うのですが、徳島市立図書館の場合は、在住の方と、在勤の方についても、図書カードを作って、図書を借りることができます。北島町や藍住町の図書館でも同じようなルールが適用されているかと思います。このため、この定住自立圏の枠組みを利用しなくても、徳島市立図書館をご利用いただくことが可能でありますので、連携市町村となっていなかったのではあるかと思っております。藍住町と徳島市で、図書館の相互利用協定を結ぶかということについては、今後の検討とさせていただきたいと思っております。

#### (担当部会事務局)

赤ちゃんの駅のステッカーが小さいというご意見ですが、貼り付け場所は、施設の前とかではなく、お部屋の前に貼ることをイメージして作成したものなので、小さいのかもしれませんが。独自で大きくして、貼り付けしていただいているようなところもあるようです。今後、検討させていただきたいと思っております。のぼりの貸出についても、平成31年1月末現在で赤ちゃんの駅の認定施設は84カ所ございますので、全施設には難しいのですが、貸出は行っております。また、「とくしま赤ちゃんの駅」特設サイトで、場所とどのような施設かについて、一覧で見ただけのようにいたしておりますので、ご参考にしていただければと思います。

#### (事務局)

森林環境譲与税についてですが、この場に担当がおりませんので、具体的な内容のお答えが難しいのですが、県と各市町村の担当で検討をしていると聞いております。今後も、国の動きを注視し、まずは所管部署の方での対応ということになるかと思っておりますが、徳島東部地域の取組として、何か活用できる場所があれば検討をしていきたいと思っております。

#### (会長)

子育てがしやすい街、子供を持った親が働きやすい街、出かけやすい街というのが、まずは人口減少の歯止めの一つになるのではないかと思いますので、子育て支援に関しても取り組んでいただきたいと思います。

#### (委員)

中心市街地の都市機能の充実に関連してですが、ひょうたん島川の駅ネットワーク構想について話し合う「ひょうたん島川の駅連絡会」に何年か前に出席させていただいておりました。その会は、なかなか面白い取組であると思っていたのですが、その後、市長が変わったためか、次につながっていきませんでした。せっかくそれまでに続いてきた取組なので、首長が変わっても、続けられないものかなと思いました。

また、徳島ひょうたん島水都祭に携わっている方が私の周りにはたくさんいるのですが、水都祭は、たくさんボランティアが携わっており、年々大きくなっていきます。その一方で、徳島市の予算がすごく少なくなっているのは、どうしたものかなと思います。

私が所属するNPO法人アクア・チッタは、万代中央ふ頭で、年1回、このような場所を知っ

てもらうための広報活動の一環として、アクア・チッタフェスタを開催しています。2日間に、あの狭い場所に1万5千人ほどの方が訪れます。イベントを行うと充実感はあるのですが、その次の日の街を見ると、喪失感と言いますか、ちょっと寂しいものがありまして、1日や2日というのではなく、年間を通じて人が集まる、滞在時間が長く居ていただけるような街にしたいと思っています。この人のにぎわいがどうにか続いていく方法はないかというところで、行政からの助言やちょっとした後押しをいただけると励みになると思います。徳島市がこの取組について、どのように見ているのか、行政からの反応というのを、何か少しでもいただければと思うところです。

#### (会長)

ありがとうございました。NPO法人として長く活性化に携わる委員ならではの発言だと思います。同じようにNPO法人としてのお悩みやご意見があるのではないかと思います。いかがでしょうか。

#### (委員)

私が所属するNPO法人里山みらいでは、主に、神山町で作られた農産物を全国に発信しているという取組を、今年の5月から始めています。これまでは、移住交流にも取り組んでいたのですが、予算上の問題もあり、事業の絞り込みを検討する際に、神山町で何ができるか、神山町が一番誇れるものとは何だろうと考えたときに、「すだち」だということになり、現在の状況となっております。

現状としては、8月の下旬から10月上旬がすだちのシーズンですが、その時にちょうど東京近郊の各地で阿波踊りが開催されています。一番大きいものが高円寺の阿波踊りで、東京の人からすると、阿波踊り＝高円寺というイメージがあるようです。阿波踊りが徳島というイメージが全然ないようで、そこもどうにかしたいなとも思っています。そこで、阿波踊りとすだちを結びつけた取組として、高円寺の飲食店にすだちを持ちこみまして、「神山すだちビール」として、すだちを使ってもらおうということを行っております。飛び込みで営業に行っても、なかなか難しいので、キリンビールとタイアップをして、キリンビールを使っている飲食店ですだちも使っていただくというようなことを行い、最初は20店舗少々であったんですけども、昨年までに60店舗少々まで拡大をしております。こうした取組により、農家の意欲が少しでも増すのではないかと考えております。

交流・移住促進については、あまり多くは携わっていないのですが、神山町は結構、移住された方が多くいます。町の保育所が二つありますが、待機児童ができるような状態になっておりまして、なおかつ保育士の人手も不足しておりますので、圏域の皆さんのお力もいただければと考えております。

#### (担当部会事務局)

徳島ひょうたん島水都祭に関してですが、予算規模に関しては減少傾向ではあります。担当部局としては必要な経費を、財政部局に要求しているのですが、なかなか厳しい査定状況となっております。実績をみましても、成功している事業であると認識をしておりますので、予算要求はしていきたいと考えています。

#### (事務局)

先ほど、市長が変わると政策を止めてしまうというようなご意見をいただきましたが、ひょうたん島川の駅ネットワーク構想については、現在も継続しております。新町西地区市街地再開発事業との関係がございましたので、事業の進捗スピードが若干、低下はしておりますが、ひょうたん島川の駅ネットワーク構想につきましては、引き続き推進をすることで変わっておりませんので、今後ともよろしく願いいたします。

#### (会長)

まだご意見をいただいている委員もいらっしゃいますので、どうぞご発言をよろしく願いいたします。

#### (委員)

私どもは、民間の事業者として、観光業をメインに操業しております。観光で訪れると一言で言っても、その動機付けはいくつかございます。夏休みやゴールデンウィークなどでの集客がメインとなる一般のお客様と、もう一つは、企業や団体、修学旅行や林間学校、遠足といった教育関係の方々との観光ということでも、それぞれのアプローチをとっていく必要がございます。上勝町の委託事業として、視察の受け入れを行っておりますが、視察旅行も一つの観光資源であると思いますので、それぞれの目的で訪れる方々を、セグメントし、ターゲットごとに絞らねばならず、取り組んでいくと、それなりの効果が出るのかなと思っております。

また、取組を実際に進めていく中で、スタッフが10名未満の小さな事業所が、全国へのPRやターゲット及びエリアの設定並びにこれに即した観光プログラムの開発までも行うことは、難しいという側面がございますので、首都圏や大手企業と協働・協業してやっていくというところが、事業を継続するうえでのキーポイントになるのかなと思っております。

#### (会長)

観光誘致の一つに、MICE（マイス）というキーワードもございますが、教育旅行や企業の視察旅行などの視点から人を呼ぶということが必要であるというご意見でした。

#### (委員)

私は、農業の現場におりますが、視察をお受けすることも少数ですがございます。以前、アメリカに農業の視察旅行に行った際には、視察先で結構な額のお金を取られました。内容が伴っていれば、視察の受け入れに対して対価をいただいてもいいように思います。また、ブランド化の推進という意味からも、単にブランド名を表記するだけではなくて、実際に食べていただくという観点からも、体験農業を受け入れるといったようなことが大事であると考えます。

この懇談会では、共生ビジョンという大きな枠組みの中で、農業の振興を図って定住自立圏を推進する、みたいな大きな話になりますので、なかなか具体性をもった発言ができないというように感じています。

農業の現場は、人手不足、後継者不足が問題になっています。継承が進まないのは、儲かっていないから、理由はまさにここにありません。

最近では、外国の農産物がたくさん入ってきています。T P P、E P Aが発効されましたが、農産物については、あんまり影響がないようにも思われているのかもしれませんが、やはり、全体的に消費者の意識と言いますか、農産物が安くなる、冷凍した野菜がどんどん輸入され使い便利が良くなっていくというイメージを抱かれると思います。そういった中で、日本の農産物がきちんと評価されて、販売していけたらというようなことを、漠然と考えております。

特産品ブランド化・地産地消推進事業の取組内容についてですが、ブランド化については、大規模農家で取組が中心になると思います。例えば、さつまいもの鳴門金時というブランドを県下で統一して作ってきたように、きちんと管理を行うということ。もう一つは、出荷に関することで、箱の統一化や出荷調整の施設の整備に予算を投入するといったことを、広域で検討をし、連携を図っていくべきであろうと思います。

地産地消に関しては、フードマイレージが低い方が良いという話になりますので、多品目少量で、量販店や産直市などで売っていくということとなると思います。

農産物の振興について、ブランド化と地産地消という、この二つを取り上げて取り組んでいくという方向性は、進捗評価にもAがついていますが、私も評価できると考えています。

#### (会長)

この場ですぐに解決策を示さなければならないというわけではありませんので、ご自由にご発言をいただければと思います。

#### (委員)

一つは、鳥獣被害に関することですが、私の住んでいる地域ではイノシシの被害が出ています。家の近くまで来て、すべて土が掘り返されたりしています。役場に行ってイノシシの檻などを貸してもらったのですが、なかなか入りません。檻が閉まっても何も入っていません。タヌキなどの小動物が入って、イノシシ用の檻なので間隔が広く出ていくようです。イノシシは人の気配がすると入らないようです。畑の周囲に柵を設置するには、3軒くらいが一緒にしないと役場から補助が出ないようです。畑が山際にあるので、どこからでも入ってこられるので、なかなかそれできません。一時は畑作りを止めようかと思いました。

ところが、人間の髪の毛がイノシシ対策に効果があると聞きまして、試してみました。畑をアーチみたいなので囲っているのですが、そこにストッキングに髪の毛を入れてくくりつけて、山際の方は、直接地面に撒きました。そうしますと、不思議なことに、1頭もイノシシが来なくなりました。毎晩のようにイノシシが来て、畑が掘り返されていたのですが、ピタッと止まりました。鳥獣被害は、日本全国どこに行っても問題になっているようですが、そういった体験がありましたのでお話をいたしました。

もう一つは、農業の後継者がいないということで、耕作放棄地が大きな問題になっています。農業をするにしても、大規模でなければ、小さな農業ではなかなか食べていけません。どこに行っても、売地になっている農地を見かけますが、買い手がなく、すごく土地が安くなっています。1年も手入れを怠れば、木がいっぱい生えてしまいますし、それを放置していたら周りにも迷惑がかかってしまいます。そのようなところで、日本の農業は大きな問題を抱えて大変だというように思っています。土地を持っていると、税金はかかるし、手入れは大変、後継者もない家が多く、土地の管理に困っているので、何か良い方法があればと思います。

(委員)

農業の話が出ていますが、私も兼業で農家をしています。先ほどご発言があったように、野菜やお米など、高く売れば収入は上がる、まさにこれに尽きると思っています。昔からの農家の人は、例えば、100円のブロッコリーを200円で売りたいのに、100円に下げて売る、みたいな感覚があるように思います。農家の人は、商売人の感覚が少ないですよ。農産物の単価を上げる方法が何かないかと思っています。

(委員)

どの分野ということではありませんが、全体的に事業費がどんどん減っているという印象があります。これは、国からの予算が絞られているというわけではなく、各分野についての12市町村からのアイデアが減っているのではないかと思います。

地域の危機感というのが、なぜか共有されていない。効果的なことをもっとやっていかなければならないと思うのですが、何となく単年度の予算が減って、新しい事業が組み込まれていません。定住自立圏の取組に関して国からもらえる補助金もあるのにもったいないように思います。

新しい事業の取組を行政と民間とが、地域のために、一緒になって考えるというプロセスを踏んでいかないと。このプロセスを億劫がっていると、地域にとって良いことにはならないのではないのでしょうか。

観光に関することですが、DMOが今年度から始動していますが、すべてDMOに観光に関する取組を任せるということではなく、これまで観光・観光誘致事業を進めてきた徳島東部地域体験観光市町村連絡協議会として何ができるかを考え、DMOと一緒に何かをするという発想に立つ必要があると思います。インバウンドに関する事業のことが書かれていませんが、今、全国どこでも取り組まれていることなので、インバウンドに関する事業にも取り組もうという発想がでてくると良いのではないかと思います。

最後に、成果指標の「連携市町村観光客入り込み数(年間)」についてですが、特に観光の場合は、この成果指標を見ただけでは、観光事業がうまくいっている、いっていないと評価できるものではありません。観光客数の数値は、気候要因とか全国的な動きによる影響を受けやすいので、私としては、取組状況でいうと【平成30年度の取組実績(見込)】の項目をもっと充実させていただくとともに、この項目を成果指標として重視していただければと思います。

(副会長)

観光に関して、今年、大塚国際美術館が有名な歌手の影響ですごく来館者が増えているようですが、おそらく美術館に訪れた人は、それだけで帰ってしまっているのではないかと思います。もっと徳島東部圏域に人が流れてくるようなことを取り組む必要があります。もっと嗅覚を鋭くして、何か一つのことをきっかけに、積極的にPRをするというようなことを考えていってはどうかと思います。

先日、新聞に四国のJRがほとんど赤字であるとの記事が掲載されていました。この徳島東部圏域では、たちまち廃路といった心配はないのかもしれませんが、路線が減ると、また公共交通機関が不便になってしまうので、もっと上手に、行政がJRやバスなどの交通事業者とも話をしながら、集客について考えていかなければならないと思います。自動車以外で来られる方が、

行きたいところに行きやすくなるように、全部が全部は難しいかもしれませんが、主だったところには、公共交通機関等で行けるような計画ができればと思います。

最後になりますが、成人式で配られたとくしま動物園の無料招待券を利用して、何人くらいの方が訪れたのでしょうか。

#### (担当部会事務局)

まず鳥獣被害についてですが、徳島市においても、イノシシ等の目撃情報や生活被害に関する通報も数多く聞いております。現在、イノシシについては、檻を設置するということと、猟友会に委託して捕獲活動の支援を行っているところです。サルの被害については、現在、佐那河内村と神山町と徳島市でS K T群対策連絡会を設置して、情報の交換会等を実施しています。

農業の後継者が不足しているという問題については、耕作放棄地等については、徳島市でも数多く報告されておりました、その対策としては就農支援体制連携強化事業として、定年退職者の方を含む新規就農者に対して、耕作放棄地をデータ化して情報発信するということ、また、育成のための講習会を活用し、栽培技術の向上や経営安定化を図り、地域農業の担い手として定着できるようにと進めているところです。

#### (事務局)

事業費総額に関してですが、事業費の大きいものでいうと、徳島市の道の駅の整備事業が休止となったほか、平成28、29年度は小松島市の葬斎場の建設事業費が含まれておりました。そのほか、事業費の増減はございますが、定住自立圏構想の推進のために措置される特別交付税については、毎年上限額を措置されている状況です。特に全体として取組を縮小させたわけではございませんが、限られた予算の中で工夫して取り組んでいきたいと考えております。

成果指標については、変更することも可能です。また、取組状況の報告において、取組実績の項目をもっと重視するべきというご意見を頂きましたので、検討させていただきたいと思っております。

最後になりますが、とくしま動物園の無料招待券の利用実績ですが、今年の1月前半に配布し、2月10日現在で23人の圏域の住民が利用いただいたと、とくしま動物園の担当者から聞いております。内訳としては、1月に15人、うち徳島市民が10人、石井町民が2人、藍住町民が2人、北島町が1人、2月は8人で、すべて徳島市民となっております。

#### (会長)

皆様方のご協力をいただきまして、本日予定しておりました議題はすべて終了いたしました。長時間わたりまして会を進めてまいりましたが、そろそろ会を閉める時間となりました。

事務局からの連絡はございますでしょうか。

#### (徳島市企画政策局長)

本日は皆様方の貴重なご意見を頂戴いたしました。いただきましたご意見につきましては、今後の事業の推進にあたり検討をしていきたいと思っております。委員の皆様におかれましては、引き続きご協力ご指導賜りますようお願いいたします。本日はありがとうございました。

**(事務局)**

最後に、委員の皆様にお願いがございます。後日、事務局から委員の皆様には会議録の案をお送りさせていただきます。お手数ではございますが、ご自身の発言部分につきまして、ご確認を頂き修正等がございましたらご返答いただきますようお願い申し上げます。事務局からは以上です。

**(会長)**

ただいまの件につきましては委員の皆様お手数ではございますが、ご確認をお願いいたします。それでは以上をもちまして第9回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。

以上